# 歴史は人間学の宝庫。 その物語が現代に問いか



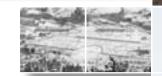
塩野 七生氏

自らの疑問に答えを出す ローマ史への旅

三村 新年あけましておめでとうご ざいます。2008年の新春対談は、長 年イタリアに在住し、独自の視点から 西欧史に関わる数多くの著作を執筆 してこられた作家の塩野七生氏をお 招きしました。昨秋、塩野さんは文化 功労者に選ばれましたが、ここで改め てお祝いを申し上げます。

数カ月前に担当者から今年の新春対 談の候補者が提示されましたが、私は 塩野さんとぜひお話ししたいと思いま した。またご出席いただけることが決 まってからは、試験がないと勉強しな い性分ですので、対談という試験に向 けて、今日まで著書で猛勉強しました。 その過程で『マキアヴェッリ語録』など の著作を拝読しましたが、塩野さんの 作家としての原点は、ニコロ・マキア ヴェッリ(\*1)にあるように感じました。 まず、その点についてはいかがですか。 塩野 そうですね。大学の卒業論文で イタリア・フィレンツェの歴史を取り上 げ、取材の過程でマキアヴェッリに関 する文献に出会ったとき、「人間は自分 の父親を殺されるよりも、自分の将来 をズタズタにされた方を長く恨むもの だ」という彼の言葉にショックを受け、

しおの・ななみ 1937年東京都生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業後、イタリアに遊学。帰国後「中央公論」に連載した『ルネサンスの女たち』で デビュー。初の書下ろし長編『チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』で70年度毎日出版文化賞を受賞。イタリアの永住権を取得し、イタリ アの歴史、時事など幅広い執筆活動を続ける。82年、ヴェネツィア共和国の興亡を描いた『海の都の物語』で菊池寛賞、サントリー学芸賞をダブル 受賞する。92年から『ローマ人の物語』を毎年1冊ずつ書下ろし、2006年、「ローマ世界の終焉」により完成させた。新潮学芸賞(93年)、司馬遼太郎賞(99 年)、イタリア共和国功労褒章(02年)、紫綬褒章(05年)など受賞・受章多数。07年には文化功労者に選ばれる。









## けるものは

目が覚める思いがしました。知識人の 多くは、自分にとって大切な「自由」は 他人にとっても大切なものだと考えま すが、マキアヴェッリは「多くの人々に とって、食物と安全が最大の必要事で あり、自由なんぞは…」と言っています。 あの時代にこのような言葉を発したこ と自体が革命的だったと思います。

三村 これまで多くの学者や文人が 残したローマ史に関する書物の中で、 塩野さんが15年の歳月をかけて書か れた『ローマ人の物語(全15巻)』は、 世界で初めてローマの通史を描いた 作品だと認識しています。これは大 変な偉業だと思いますが、15年間、 一つのテーマを追い続けてこられた 原動力は何でしょうか。

塩野 書き始めたころは、司馬遼太 郎氏や林健太郎氏(\*\*2)などの諸先輩か ら、「日本では歴史の場合、学術研究 か小説しかない。君はその中間をや ろうとしていて大変だろう | と言われ たことが励みになりました。いまだ に本屋さんは私の本をどこに置いて いいのかわからないようですし、賞 の選考委員もジャンル分けに迷った と思います。私自身の気持ちとして は、他人が書いたものを研究するよ り、自分で歴史を書きたかった。そ して、なぜローマだけが民族・文化・

宗教の違いを超えた普遍帝国を実現し得たのかという、自 らの疑問に答えるためには、一人の見方で一貫して著述し なければならないと考えてきました。

歴史は人間を見ていくだけでドラマチックです。理想の



新日本製鉄(株) 代表取締役社長 三村 明夫

男性であるユリウス・カエサル(シーザー)(\*3)を追い続け、 その興味が膨らむことでここまできたような気がします。 描く対象が女性の場合は私と似たような人がいて、書いて いると途中で嫌になってくるんです(笑)。

## 変化への対応の指針となる「歴史のif |

**塩野** 最近、魅力的な政治家や経済人が少なくなった中で、 実は私も三村社長とお会いしたいと思っていました。以前、 小泉元首相が「在職時代は夜中によく目が覚めて考え事を した」という話を聞き、現在、三村社長は日本でそうした 数少ない「戦場にいる経営者」のお一人だと感じました。 近年の鉄鋼業界再編の中で、最大手のアルセロールミタル が誕生しましたが、そうした過程で新日鉄も変わったので はないでしょうか。

三村 ミタルは過去16年間、世界各地で20数件のM&A (企業合併・買収)を繰り返し、一昨年には先進技術の獲 得などを目的としてアルセロールの敵対的買収を短期間 で実現しました。このようなことは従来の鉄鋼業界には なかったことですが、資本の論理を貫いたこの行動に対 して誰も支援の手を差し伸べることができませんでした。 世界鉄鋼業に衝撃が走ったこの2年間の出来事は、私自 身、非常に勉強になりましたし、対応策を講じる過程で 当社も大きく変わったと思います。

塩野 私は新日鉄の穏健でギラギラしていないところがい いと思っています。母が残した重厚長大企業の株券の中に あった新日鉄の株券を何十年も持っていますし(笑)。そう した伝統ある会社が、予期せぬ事態(戦場)に巻き込まれた とき、ビクついてあきらめるか、変化として捉えて生き生 きしてくるか。新日鉄は後者でしたね。

三村 塩野さんが言われている「歴史のif」として、もしも当 社が最初の買収の対象だったら、また、もしもアルセロール が当社にホワイトナイト(\*\*4)になってほしいと助けを求めてい

たらどのように行動したかということを考えました。この2 つの「if」は自分にとって難しい判断を迫られる仮説です。

塩野 歴史学者は、「歴史に"if"はご法度だ」と言います が、「ifの活用 | で想像力を持って歴史を見ることが、ひい ては現代社会の出来事を考える上での指針になると思いま す。一人の人間が生涯で経験できることには限りがあるの で、歴史という長い座標軸を持つことが、自分という器の 容量を増やすことにつながると思います。

**三村** 次のターゲットは当社だという仮説のもと、同社と の交渉を行いました。そして両社の関係再構築の過程で右 か左かというような判断を迫られ、正直なところ夜も眠れ ない日もありましたね。

塩野 日本の鉄鋼業の盛衰は、経済面での影響に加えて、 日本の産業界や社会に与える心理面での影響が大きいと思 います。新日鉄が日本に根付いているからです。ルネッサ ンス時代にイタリア・フィレンツェで台頭したメディチ家(\*\* 5) が経営する銀行が倒産したときに、フィレンツェ市民は 大変動揺しましたが、それと同じくらい大きなインパクト があると思います。

三村 需要家や日本経済の成長を通じて当社も成長すると いうことが基本的な考え方ですが、当社は、日本製造業の 強みの源泉である「産業連携」の中で重要な位置を占めて おり、当社の存亡は全ての製造業に影響を及ぼします。例 えば、高強度化や材質向上などの鉄鋼材料の高機能化は、 日本の自動車の高い品質と軽量化・省エネ化を実現してい ます。当社の動向は、自動車や機械などの主力産業を含む 日本のものづくりの国際競争力に影響を与え、ひいては世 界製造業の技術革新を左右する要因ともなります。業界再 編は当社だけの問題ではないと認識しています。



ニコロ・マキアヴェッリ © Archivo Iconografico, S.A./CORBIS



『ローマ人の物語』全15巻 写真提供:新潮社

<sup>※4</sup> ホワイトナイト:相手企業の同意を得ないまま株式公開買い付け (TOB) などを行う敵対的買収者に対し、企業の経営陣と合意の上で、友好的な立場からTOBなどを行う 買収者。白馬に乗った騎士が助けに現れるイメージから名付けられた。



## 日本の経営思想から 生まれる「寛容」を大切に

**塩野** 現在、世界鉄鋼業の再編など産業経済のグローバル化 の中で、日本企業には、従来にない経営思想との対峙が求め られているように思います。私は製造業と同じように「モノ」 を創ることが仕事ですが、作品は、基本的な思想・理念を共 有できる出版社・編集者との長年にわたる共同作業の結果生 まれます。その意味で、資本の論理だけですべてを支配して しまうやり方に疑問を感じています。昨今の経済界では、新た な事業を自らが創造せずに、株で経営権を握るといった買収 行為で事業を拡大するケースが増えています。しかし私自身、 経済はお金や数字だけで動くものではないと考えています。

三村 この2年間、「産業資本」ではなく「金融資本」のロ ジックで世界を駆け巡るファンドの力を目の当たりにしま した。従来の鉄鋼業界では考えられなかった買収と大胆な 合理化を断行して短期間で利益を生む体質に変える経営手 法は、一つの新しいビジネスモデルです。しかし当社には、 会社を商品として扱う発想はなじみませんね。

塩野 現段階で、会社を商品として扱うようなやり方に対 して確実に対抗できるのは、外国企業による50%以上の出 資を認めないなど、国策として鉄鋼業に対する外資進出に 制限を加えている中国だと思います。そうした中で、日本 鉄鋼業、新日鉄としてはどのような防衛策をお考えですか。 三村 私は今の時期を、健全な業界構造に向けた再編の第 2ステージと捉えていますが、「株主を大切にする」「企業価

#### 鉄鋼材料の高機能化は、日本の産業界の競争力に大きな影響を及ぼしている



© ZUMA/CORBIS/amanaimages



自動車の安全性や省エネを支える高張力鋼板 ハイブリッドカーなどのモーターの 効率化を実現する電磁鋼板



船舶の大型化、大量輸送に貢献する高強度厚鋼板





値を向上させる」といった従来の防衛策を継続した上で、「ソ フトアライアンス (緩やかな連携)」、つまりお互いの企業哲 学と経営の自立性を尊重しながら価値観を共有し、相互に 提携メリットを追求できるパートナーと手を握るといった、 当社独自のビジネスモデルを考えています。現在当社では、 日本やアジアの鉄鋼メーカーとの提携拡大に加え、ブラジル・ ウジミナス社への出資拡大による持分法適用会社化など、 内外鉄鋼メーカーなどとの連携を深めているところです。

また最近、ロシアのエネルギー関連企業によるヨーロッ パ企業の買収の動きに対して、EUが防衛策を打とうとし ています。自由主義経済の観点からはなじまないかもしれ ませんが、「国益」を考える上でそうした施策も必要だと思 います。いずれにせよ、日本の経営思想を基盤に、対抗策 を考え実行しています。

塩野 対抗策を考えるときは、相手の立場に成り切って 戦局を読むことが大切です。そのための情報調査、シミュ レーションは経営コンサルタントやシンクタンクではな く自社の内部で行うべきです。外部組織はビジネスとし て情報提供を行うので、時として事実と乖離したレポー トになるケースがあります。そして自ら収集した情報を もとに、相手の戦略の裏をかくことも勝つ条件の一つで す。歴史上唯一ローマ軍に勝ち続けた古代ローマ最大の



敵、カルタゴの名将ハンニバル・バルカ(\*6)は、ローマ軍 が不可能と信じていたアルプス越えでの進攻や敵地での 戦争を敢行し、勝利を収めました。

私が歴史を書くときは、自分に引き付けるのではなく、書 きたい対象のところに私自身が行くことにしています。マキ アヴェッリは「いかなる分野でも共通して必要とされる重要 な能力は"想像力"だ」と言っていますが、「自分ならばどう考 えるか | をスタートラインに、その立場、傍にいる人間に成 り切って想像することが大切だと思います。三村さんは、こ の戦いに「絶対に勝つ」もしくは「負けなければよい」のどち らのお考えをお持ちですか。

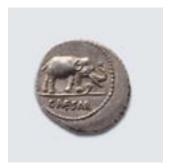
**三村** 当たり前かもしれませんが、やはり長期保有株主、

お客様、地域社会の皆さん、従業員など、重要なステーク ホルダーのために当社は存在しており、そうした意味でも 絶対に勝ち、自分の企業を守り抜きたいと考えています。 万能な買収防衛策は存在しませんが、数多くの対策を組み 合わせることで当社グループの企業価値を守る決意です。 「成長に向けた設備投資・投融資」「製造業としての製造実 力の向上」「技術先進性の追求」の3つをキーワードに、付 加価値の高い高級鋼材を中心とする総合力ナンバーワンの 鉄鋼メーカーを目指します。

**塩野** 大変心強いですね。そう思えば最悪の事態になって も負けません。負けなければよいと思うと本当に負けてし まいます。

> また、大きな視野に立って考える と、日本は古代ローマ・ギリシャと 同様に、「八百万(やおよろず)」と言 われるほどの多神教国家です。21世 紀に起こったキリスト教、イスラム 教という二大一神教同士の衝突に対 して、他者を許容できる多神教国の 日本が果たす役割は大きいと思いま す。多神教時代のローマ人はこうし た考え方を「寛容(クレメンティア)」 と呼んでいましたが、敗者への市民 権授与に積極的だった古代ローマの 敗者同化路線こそが、ローマ人の寛 容さであり、多民族国家の運営哲学 でした。そうした柔軟性が必要とさ れる時代が必ず来ると思いますし、 そこに日本企業としての強みもある





共和政時代に作られた銀貨。 「カエサル」という家族名は、カ ルタゴで「象」を意味する言葉。

カエサルの銅像とのツー・ショット

のではないでしょうか。自分の考えていることが、もしか すると正しくないかもしれないという疑問を常に持ち、現 実との闘いの中でそれを突き詰めていくと、異なる意見に も耳を貸す「寛容 | へ辿り着くはずです。

## 冷静さと時代への対応力が リーダーの条件

三村 塩野さんは、ローマ時代1200年の歴史を、その時々 の政治の中心人物だった総司令官や皇帝を通して考察し続 けてこられましたが、リーダーの役割をどのようにお考え ですか。

塩野 ローマ軍では、総司令官自身が作戦会議に列席する 軍団長・大隊長を任命するため、中間管理職である軍団長・ 大隊長クラスは部下の軍団兵よりも、総司令官からの評価 が気になり上ばかり見ていました。一方、総司令官は軍団 兵が働かないと戦闘に勝てないので下をよく見ており、兵 士の名前や生活を把握していました。私が歴史を書くとき にリーダーを取り上げるのは、下を見ているトップに焦点 を当てることで、時代の全体像とその変化が明らかになる からです。現在でも、国民に選ばれた政治家に興味がある のはそうした理由です。そういった意味でリーダーの役割 は非常に大きい。三村さんが夜中に起きてしまうのも無理 はありません(笑)。

また、カエサルからナポレオンに至るまで、優れた総司 令官は全て、捕虜などからの情報収集を他人任せにせずに 自らが行いました。言葉や文字だけではなく、尋問相手の 表情や仕草を含めたさまざまな情報を体で感じることで、 他の事実との結びつきや大局が見えてきます。

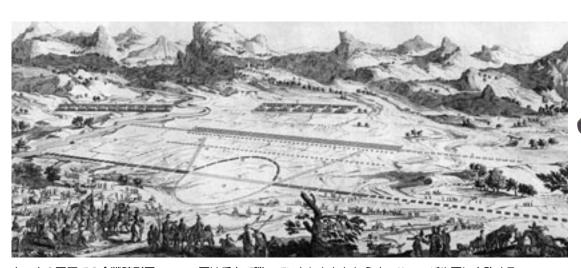
三村 特に1対1の二人だけで会った時に得られる情報量 はすごいですね。顔つきや反応などを通してさまざまなこ とを知ることができる。経営者同士が会うときは、余人を 交えずに二人だけで話し合うのが最も効果的で、そこで話 し合ったことは、どんなアグリーメントにも勝るコミット メントになります。

**塩野** リーダーとしてもう一つ大切な役割は、その地位に 長く居続けることです。歴史的に見て、戦闘中に指揮官が 変わるのはよくありません。戦艦に例えると横腹を見せる ようなもので、必ず攻撃を受ける。ローマ史でも危機の時 代はリーダーが頻繁に変わっていますが、皇帝が変わると 必ず攻撃され、その対応も遅れます。14世紀のイタリアの 詩人ダンテ・アリギエーリ(\*\*7)は、それを「痛みへの対処が わからず病床で転々と身体の向きを変える病人」に例えて います。「継続は力なり」で、「やり続ける」ことが重要です。 **三村** ハンニバルなどのローマ時代の総司令官は、戦争の 連続で移動距離も長い。しかも命を賭けた戦いのため、今 の企業経営者とは比較にならないほど長年にわたって緊張 感を維持しなければならなかったのではないでしょうか。

塩野 どの皇帝も在位20年ぐらいで亡くなりましたが、そ れだけ激務だったと言えます。現代と比較して、昔は情報 が届くまでに時間がかかりましたが、不意に届くという点 では同じです。いつの時代でも不意な出来事に迅速に対応 する心構えが大切ですし、その緊張感は相当なものだと思 います。

三村 そうした役割を前提に、リーダーに求め られる資質として何が大切だと思われますか。

塩野 最も重要な資質は「冷静さ」です。才能の ない人は詳細な作戦計画を立てますが、想



カンネの平原での会戦陣形図。ローマ軍は兵力で勝っていたにもかかわらず、ハンニバル軍に大敗する

ローマ軍団兵の像

定外のことが起こるとオタオタしますね。私はリーダーの 立場から歴史を描く際に、指揮官の能力を垣間見ることがで きる戦闘の陣形図を掲載します。名将が指揮して勝った戦い は、味方の損失が少ないことはもちろん、敵の被害も少ない。 それは冷静さによって可能になることです。

三村 そうした指揮官の資質は生まれつきなのでしょう か。それとも教育によって培われるものなのでしょうか。 塩野 マキアヴェッリは、リーダーには「器量(才能)と運、 そして時代に合う能力が必要」と言っています。生まれつ きの性格や教育も大切ですが、運、つまり「機会に恵まれ たかどうか」が大きいですね。これまで三村さんにも他の 人間が巡り合えなかった機会があったはずですし、準備、 能力があったからこそ、その運をつかむことができたので はないでしょうか。

**三村** 私は運のいい社長だと言われますが、いまのマキア ヴェッリの言葉から感じるのは、時代変化に合わせて行動 を変えられるかどうかが重要だということです。運も自分 でつくり上げる部分があると思いますね。

## 苦労を喜びに変える組織づくりが大切

三村 会社の強さは、環境変化の中で明確な方向性を打ち 出す経営力と鍛えられた現場力にあり、リーダーの意志の 強さを軸に、現場の人間のやる気を引き出して個々の実力 向上を図ることが大切だと実感しています。私はこの2つ の緊張感ある組み合わせによって強い組織ができると考え ていますが、いかがですか。

**塩野** 人間には、チャンスを与えられるとやる人、安定を与 えられるとやる人、何を与えられてもやらない人がいますが、

人間の能力は自分の予想を超えて発揮されることがありま す。そのきっかけやモチベーション、刺激を与え得る組織で なければなりません。例えば、カエサルは周りからの評価の 低い人材にあえて重要な任務を与え、任された人間も想像以 上の力を発揮して任務を遂行し成果をあげています。また当 時、男の仕事は30歳代からと思われていたときに、カエサ ルが後継者に選んだ戦闘経験もない17歳の少年オクタヴィ アヌスは、ローマ帝国の初代皇帝・アウグストゥス(\*\*8)とな り、「パクス・ロマーナ(ローマによる平和)」の時代をもたら しました。

東洋にも「士は己を知る者のために死す」という言葉が あります。部下に喜びを与え、喜びのある苦労を後継者に もたらすような組織づくりが大切です。現在、企業をはじ めとするさまざまな組織で部下の能力欠如を嘆く上司がい ますが、それは上司側の想像力の欠如に問題があると思い ます。部下の能力を適切に見極め、限られた能力を適材適 所で最大限に発揮させることが大切です。亡国の悲劇とは、 人材が欠乏するから起こるのではなく、人材はいてもそれ を使いこなすメカニズムが機能しなくなることで起こりま す。

三村 個人の能力が最大限に発揮される組織づくりには、 経営と現場の距離が近い、切磋琢磨の関係が重要ですね。 カエサルは戦闘の直前に軍団兵に向かってスピーチしたと 聞きましたが、歴史的に見て多くの総司令官がそうしたの ですか。また、それによって部下たちの心理は違ってくる のでしょうか。

塩野 戦闘前の総司令官は、さまざまな楽器の音を調和さ せる音楽会でのオーケストラの指揮者のようなもので、指示 の周知徹底などの本当の仕事は本番前にはすでに終わって

> います。総司令官は、戦闘を前に5万 人の兵士に向かってスピーチしたの ですから、相当声が大きく話もうまい。 当然、聞いている兵士はそれによって 鼓舞されますが、2つぐらいのことし か覚えられないので、明快に語ること が必要だったと思います。

> また、「軍団兵が遠くから見たカエ サルは消耗していた」という話があ ります。上司は元気な姿を見せるだ けではなく、部下に「自分たちがい なければ」と思わせることも大切で す。上司は部下に対して、組織を束 ねる能力を感じさせると同時に、自 分たちが支えなければと思わせる両





現場社員のやる気を引き出し、実力の向上を図る 当社JK大会、技能トライアスロンの様子

刀遣いになれるといいですね。ただし、たまに見せる「疲 れきった顔」は良しとしても、戦闘服であるスーツや靴に は徹底してこだわりを持ち、いかなる時もピシッと着こな すことが大切だと思います。

**三村** 言うはやすしですが、それは大変難しいですね。

塩野 大変なことですが、それを面白がって楽しまないと 成功しないと思います。上司が面白さを感じると周囲の人 間も引き込まれ、部下たちも楽しむようになります。三村 さんも組織の長である社長を、職業としてではなく自分の 生き方(生き様)として捉えると面白くなると思いますよ。

三村 おっしゃるとおりですね。大変なこともありますが、 私自身も面白いと感じていますし、男冥利に尽きる仕事だ と思います。

## これからも 「実」 に変わる 「虚」を表現し続ける

三村 塩野さんは、歴史上の人物を含めて、さまざまな 人間の姿や人柄を洞察してこられましたが、何かを成し 遂げようとするときの成功の秘訣はどのようなところに あるとお考えですか。

塩野 以前、小泉元首相に「たった1回しか会っていない のに、なぜ僕の気持ちがわかるのか | と聞かれ、「私は会い もしない、しかも2000年前の男たちを書いてきました。1 度でも会えばわかります」と答えました(笑)。歴史上の人 物を見続けて感じることは、新人は新たな力をもたらすも のの、往々にして無理をします。一時期成果があがりさら にそれを大きくしよう、大勝ちしようとすると、得てして 階段から滑り落ちます。マキアヴェッリは、「中ぐらいの勝 者は永遠に勝つ」と言っていますが、私も波に乗ったとき、 一度その波から降りて「踊り場」で休み、時間を置いて再 スタートすることにしています。なるべく無理をしないこ とが肝要ですね。

また、人間も企業も「品位」が大切です。成果があがって いる時期は、多少品位が悪くてもあまり問題になりませんが、 何か弱点が露見したときにはそこから攻撃されて、急速に人 心が離れていきます。「知力や品位(品性) | はそのブレーキ 役となります。

**三村** 確かにそうですね。企業も好況時に強いのは当たり前 です。不況になったときにその企業の品位や真の強さが問わ れます。塩野さんは15年間にわたる『ローマ人の物語』の執 筆を終えて、今は「踊り場」にいるのですか。

**塩野** 完成した直後は、ギリシャ語で言う「パトス(情熱)」 が消えて無気力な状態になりました。もう仕事をしたくな いと思い、しばらく踊り場に居て料理や家事をしていまし たが、すぐに飽きちゃいましたね(笑)。

執筆していた15年間は、常にローマ史という"磁石の 棒"を立てていました。そこに関連する情報や資料もくっ つきますが、強力な磁石がずっと立っているので、普通の 学者から見ればローマ史とは関係ない出来事、例えば、テ レビに映ったイラクの戦後処理とローマ時代の戦後処理を 比較して考えるなど、現在との対比・対話の中で歴史に思 いを巡らすことに慣れました。仕事は午前中の5時間だけ で、原稿はだいたい1日に10枚前後です。それ以外は資料 も読まずに頭を空っぽにしておく。そうするとあらゆるこ とを古代ローマと比べて考えるようになるんです。私の場 合、自分が次にどの時代の何を書くか事前に決めていない ので、そうした日常で得た情報を整理せずに、頭の中で自



ローマの中心、フォロ・ロマーノ 湿地帯だったが干拓事業によって平地に生まれ変った 写真提供:新潮社



市民権所有者のすべてが入場できたコロッセウム(剣闘場)



由に泳がせておきます。買ってきた鮪をすぐに刺身用、照 り焼き用、何用と切り分けたりせずに塊のままにしておく と、使い道が自由ですよね(笑)。書き終えてそんな生活か ら離れてみると、強力な磁石がなくなり、溢れる情報が帰 結する場所がなく、極端に言えば他のことにも関心が持て なくなりました。磁石の棒を外したときに、これが「定年 退職」というものかと思いましたね(笑)。

三村 一種の達成感なのかもしれませんね。いま踊り場か ら復帰されて、再び西欧史に関連するテーマと向き合われ ているのでしょうか。すでに何か予定 は決まっていますか。

塩野 まだ具体的ではありませんが、 私の性格、生き方からすると、全く別 のテーマに挑戦すると思います。「安 住」は頭にも身体にもよくありません (笑)。最近になって踊り場から戦場に 復帰して次のことに取り組み始めると、 自然に他の事象にも目が向くようにな りました。頭の中でいろいろな関心が 芽生えてきています。三十にして立ち、 四十にして惑わず、五十にして天命を 知ると言います。若いころは生きるた めに書きましたが、歳月を重ねると、 書くことによって自分が生きるように なります。今は書かないと生きていけ ませんね。

三村 最後に、読者の皆さんに対して 歴史の面白さを一言お聞かせください。

塩野 経済人と学者は「実」がベースで

すが、政治家と文人は「虚」の世界にいます。ただし「虚」は「嘘 (うそ)」ではなく、実に迫る別の道、実に変わり得る可能性 を秘めたものです。そこに文人としての魅力を感じています。 歴史は人間学の宝庫です。「歴史が苦手」という人は「人間が 苦手」と言っているようなものです(笑)。人間が創り上げる ドラマをもっと楽しんでもらいたいと思いますね。

**三村** 本日は大変勉強になるお話をいただき、ありがとう ございました。

(この対談は、2007年11月5日、当社「南平台公邸」で行われました)



ローマ時代の建物の上に作られた壁 古代と現代をつなぐ 写真提供:新潮社



塩野氏の書斎の机 『ローマ人の物語』はここから生まれた 写真提供:新潮社



ラテン語やイタリア語の文献が 所狭しと並ぶ書棚 写真提供:新潮社